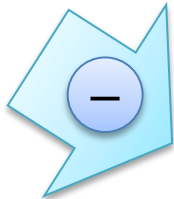


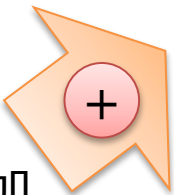
石油製品の価格とコスト①

製品コストへの影響因子例

原油安
省エネ
稼働率向上



原油高
処理工程増加
設備の新增設



製品コスト(原価)

損失



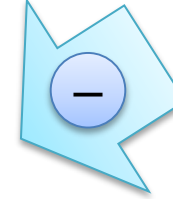
利益



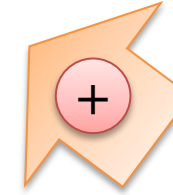
価格(市場)

国際市場での価格への影響因子例

原油安.
他地域からの
安価な製品の流入
製品余剰感



原油高.
需要量の増大
入手困難性
投機的取引

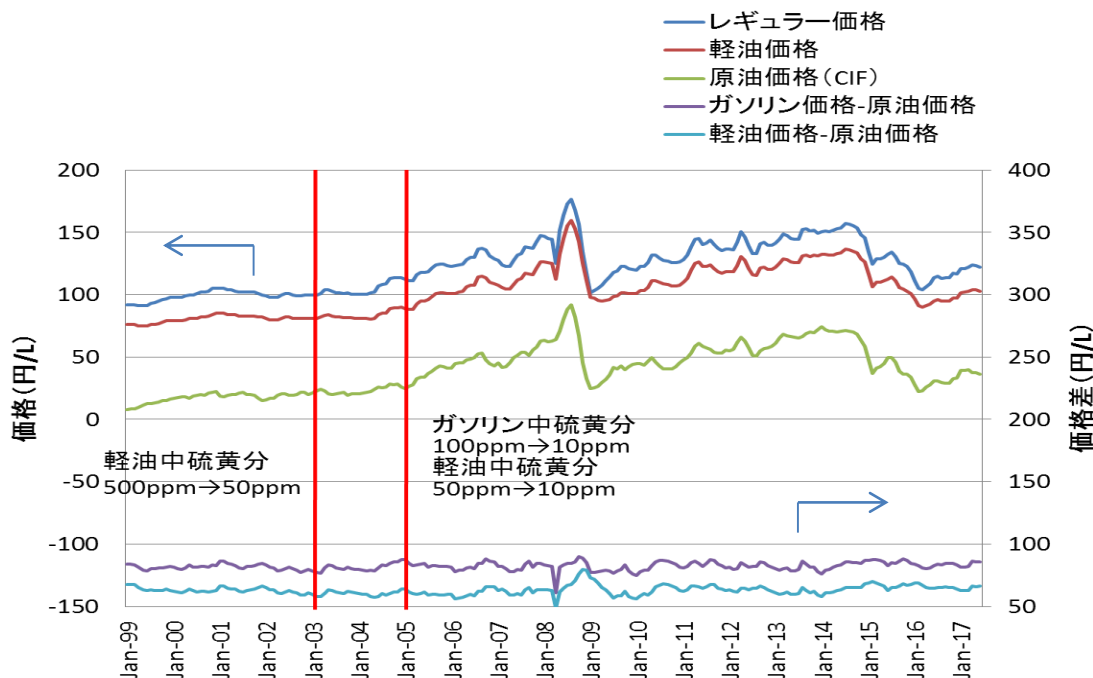


国際商品のため、製品価格への影響因子は多く、供給側の意志ではコントロールできない。
→設備投資や原油代金を直接価格には反映できず、市場取引で価格が決まる。

石油製品の価格とコスト②

- 石油製品価格は原油価格と連動し、需給状況等に応じて決定されるものであり、コストの増減によって価格が増減するとは限らない。

わが国の原油CIF価格とガソリン・軽油小売価格（消費税抜）の推移



※ ガソリン・軽油の低硫黄化規制（50ppm）は2005年1月、超低硫黄化規制（10ppm）はガソリン2008年、軽油は2007年の規制導入に対し、実際には軽油の低硫黄化規制（50ppm）は2003年4月、超低硫黄化規制（10ppm）については、ガソリン・軽油共に2005年1月から前倒しで供給を行った。（ガソリンは2度の規制強化に対し、1度の低硫黄化で対応した。）

価格とコストに関するまとめ

- 原油価格は国際市場と連動して決定されるもの。
- 製品価格は原油価格と連動し、需給状況等に応じて決定されるものであり、コストの増減によって価格が増減するとは限らない。
- 最終的な取引価格は、事業者間の相対交渉によって決定されるもの。

現在の環境：

- 原油価格が低迷している (原料下げ幅薄)
- 軽質低硫黄原油を利用 (原料費の上昇)
- 脱硫の強化を図る (処理工程増加)
- 海外での製品供給不足が懸念 (入手困難性)

→ **低硫黄C重油価格を押し下げる要因が希薄。**